

棚で見つけたなんだか気になる本を読んでみた

「健太、斧を取れ！」

M「今回の本はコレ！『健太、斧を取れ！』です。皆の衆、読んでみた？」
 A「っていうかあのう…今回なぜこの本がテーマなんでしょうか??」
 M「いい質問ね！それは、AさんがチームYAに入る前…今をさかのぼること2年前…。鬼の館長よりYAコーナーを盛り立てろと密命が下り…」
 F「Mさん…目が遠くなってますよ！紙面に限りがありますから！端的に!!」
 M「はっそうね。ようするに、その頃棚で妙に気になった本がこれ。」
 A「タイトルからして日本人の話みたいなのに、外国の方が書かれてますよね。」
 M「そうなのよー。なんとこの本は、日本の伝承などを研究した英国の作家が、日本を舞台に書いたイギリス風ファンタジーなんですねー！読んでどうよ？」
 F「ええっと…び、微妙に面白かったです（汗）」
 A「そうですね…面白かったと思い…マス。」
 M「なによーその微妙な顔は？まあ言いたいことは大体わかるけどさ。」
 A「主人公の健太は14歳なんですけど、ある日自分が転生を繰り返す再生者だと知ってますよね。で、再生者の先生にいろいろ教えてもらいながら、成長していくという…」
 M「日本でおなじみの河童とか座敷童子、天狗などの妖怪が出てくるのよね。…で」
 F「なぜか日本在住設定のエルフも出てきませう。」
 A「ちょっとびっくりでしたね。河童、座敷童子、天狗ときてまさかのエルフ」
 M「私どうもねー、日本家屋でおせんべいを食べながら「あ、エルフだ！」とか言うシチュエーションが許せないわ。だってエルフって西洋風に美しい種族じゃなかった!?ニッポンの風景に入れたくないよー」
 F「んなワガママ言わないでくださいよ。このお話はエルフが重要な役割を！」
 A「あ、お鍋ですね♪」
 M「はいはいネタバレ禁止ー。それ以上はダメー」
 F「そういえばタイトルの「斧を取れ」ってね、最初木こりの話なのかと思ってました」
 A「私もそうです。森林業の修行の話かと（笑）でも木こりは関係なくて、格言のことでした。」
 F「でもお…立派な格言のわりに、活かしきれてないような気がするのはい気のせいでしょうかね？」
 M「うっ…。そんなとこ突っ込んでんじゃないわよ。もっと楽しいエピソードあるでしょー？カッパクラフトとか。」
 F「今それを話題にしますか!?紙面もうないのになっ」
 A「じゃ、続きはブログで♪」



クリストファー・ベルトン著 渡辺順子訳 933/ベル 幻冬舎

ホンダラケ

H28.04.01.



本誌の対談の続きはこちらで！
<http://sanda-city-lib-ya.sblo.jp/>



ライトノベル特集

お待たせしました！ 去年人気だった「ライトノベル特集」の再来です！流行の移り変わりが激しいのがラノベの特徴。一度時期を逃すと以前のタイトルはどんどん埋もれていっちゃう…なのですが、そんな今は読めない本が読めちゃうのが図書館のいいところ♪ さあ、たくさん展示しますよ！

下読み男子と投稿女子

～優しい空が見た、内気な海の話。～

野村美月 著 KADOKAWA F/ノム



“読む”のが大好きな高校生の青は、叔父のツテでライトノベル新人賞の下読みをしている。ある日応募原稿の中にクラスで評判の美少女、氷雪の名を見つけた。彼女の普段のイメージとはかけ離れた作品にとまどう青だが、氷雪の投稿作のアドバイスをすることになり…。2人の関係がもどかしい青春ど真ん中のストーリーです。ラノベ投稿作の下読みという裏事情も楽しいですよ。

ホンダラケとは

本誌は、読者の身も心も「本だらけ」にしてやろうという心意気から生まれた中高生向け小冊子です。

本誌に登場する本は全て三田市立図書館本館のYA（ヤングアダルト）コーナーでご覧いただけます。（もちろん、大人の方もお読みいただけます）

2か月に1度、年6回発行予定です。

皆様が手に取りたくなる誌面にしてまいります。ご期待ください。

青春読書記

～三田学園図書委員会より愛をこめて～

今月のテーマは「昭和」！ 私たちの知らない世界です。
平成世代からみた「昭和」を是非お楽しみください！

「金閣寺」三島由紀夫：著 (F/ミシ)



昭和二十五年七月一日。戦火の傷跡の残る日本に重大ニュースがもたらされた。「金閣寺、焼失」。放火犯は若い学僧だった。この作品は真実を元に、放火から自殺まで何も語る事のなかった少年の心の内を描いている。理想とした幻覚の金閣に惑わされ、金閣を誰よりも憎み、誰よりも愛した少年について語るという、なかなか異質の作品。文化的研究からこの作品を読む人も少なくないが、文化財保護について考えさせてくれる作品でもある。古い作品ではあるがその輝きは不朽。百聞は一見にしかず。是非読んでみて下さい。



ホンダラケは皆様の投稿をお待ちしております。
YAコーナーに用紙・ポストがございますので、
おすすめ本や本誌の感想・要望などお寄せ下さい。



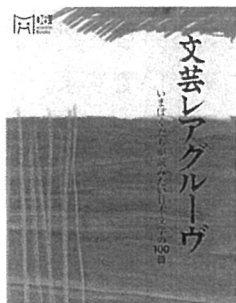
リサイクル予備軍

～なぜ君は借りてもらえないのか～

文芸レアグルーヴ

いまぼくたちが読みたい日本文学の100冊

文芸レアグルーヴ著 マーブルトロン



910/ブン

文芸レアグルーヴとは何ぞや？と思ひ表紙をひらいてみれば・・・雑誌のようにおしゃれな本ではないですか。“文芸レアグルーヴ”はユニット名で、メンバーのお2人がおすすめする文芸の100冊を紹介する本です。カフェ本、恋と青春本などジャンル分けされており、カタログをめくるように楽しむことができます。お2人は村上春樹のファンなので、村上春樹が好きな方にもおすすめ。読書の幅がきっと広がります。

新着本Pick Up



世界一のランナー

エリザベス・レアード作、石谷尚子訳

評論社 933/レア

舞台はエチオピア。主人公の少年・ソロモンの夢は、ランナーになること。ある日、おじいちゃんについて出てきたアディスアベバの街で事件が起きて……！？ 走る事が大好きな少年とその家族の、熱い思いに溢れた物語です。

YA新着本

請求記号	タイトル	作者名
410. 4/16	数学教室πの焼き方	ユージニア・チェン
538. 9/16	宇宙探査の歴史	MARY KAY CARSON
Fオギ	エチュード春一番 第一曲	荻原規子
Fナリ	デュラララ!!SH×4	成田良悟

執筆者の腕がひたすらに試される 名作本コラム

いんえいらいさん 『陰翳礼讃』

中公文庫/谷崎潤一郎：著

P.N.アショカおうさんの投稿本です。ありがとうございます。スイッチ一つで昼間のように明るい世界が手に入るこの時代。けれど本来、日本では少しの暗さの中にこそ美しさがあると考え、あえてほの暗いことを大切に暮らしていました。西洋から電灯がやってきて、世の中は明るくなったけれど、日本古来の陰の美を忘れてはならないと、谷崎が述べる随筆です。部屋の灯りを、むしろ陰を生むために点けていたような、奥ゆかしい日本人の心を忘れないようにしたいですね。しかしこの随筆、途中で廁(トイレ)の良し悪しについても執拗に述べています。トイレの白さを憎みすらしているような文章に、谷崎に一体何があったのかと思わずにはいられません…。



陰翳
礼讃

谷崎潤一郎

Eタニ